

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

活動隊員：小原真理子・芹口順子・高田昭彦

2024年1月16日（火）

<1月16日>

- 3:30 情報交換
- 4:00 トイレキットの補充
- 5:00 トイレ介助
ホットタオルの準備
- 6:00 体育館ラウンド、1Fラウンド（窓越しに観察）
- 7:00 ホットタオルを配布
情報交換
- 8:00 本部会議 昨夜の会議で同意が得られた、感染予防のためブルーシート敷きを予定通り実行する。土足を中止する方向となる。
- 8:30 自衛隊による診療の準備（保健室2チーム診療）
マイクで診療開始について知らせる
体育館住民の診療受付（氏名・年齢・住所・症状の記載）
廊下での待合は寒いので、体育館内で待機、on call とする
1名風邪症状、風邪薬を処方 体温 35.9℃ 血圧 151/109mmHg SpO₂ 97%
1名風邪症状、風邪症状 体温 38度 血圧 147/99 mmHg SpO₂ 97%
COVID-19 検査陽性
本部長に報告、感染症避難者の部屋に移動
- 9:00 合間にボランティア（被災者であり、消防団）の健康チェック
血圧 150 mmHg 以上、体温 37 度以上は受診を勧めた
- 9:30 自衛隊医療2チーム来所：体育館住民対象、教室の往診
1名、体温 38 度（Corona 検査済み）のため受診。一般風邪薬で OK とのこと
受診者数：13 名（体育館の患者は風邪症状と血圧関連が主である）
精神疾患を有する避難者について、かかりつけ医による処方薬が手渡された。自衛隊精神科医は主治医にコンタクトをとり情報を得て、統合失調症の治療薬 1 か月分が筋肉内に保有される筋肉注射を実施。不眠時 コントミン 1 日 3Tab が処方される。本人は七尾市の病院に入院経験あり。退院後 6 年間は在宅で療養を続けてきた。今回薬を服用しなかった期間は 1 月 8 日より 1 週間、症状はあまり変わらない。幻覚あり、幻聴は不眠時々あり、便秘時々あり、腹満なし。周囲は事情を知っているのでやさしく対応してくれる。
- 10:30 朝食 感染症のある避難者の部屋の配膳（部屋の前まで）は消防により、患者に渡すのは看護師
- 12:00 医療チーム診療終了、退室

診療状況について情報を得る

12:30 交代で朝食をとる。

13:00 ボランティアが感染予防のためのブルーシートを敷く段取りを説明し、合図とともに住民が荷物をまとめ、箒とモップで掃除を始めた。その後、担当者の誘導でサイズを合わせながらブルーシートを敷く。

通路及び、土足エリアとの境界を明確にするために、テープをはった。

スリッパの活用について

- ・ゴザ（上履き）による通路4本増設
- ・上履き着用通路（体育館付帯設備である、緑色ロール）を扉まで伸ばす（体育館の床養生のため）
- ・同色となって判別がつかないので、緑色ロールの上にさらにブルーシートを土足エリアに2重重ねになるように貼る
- ・スリッパを2種類、上履きスリッパと中履きスリッパとする。土足は体育館入り口で脱いで、中履きスリッパとする運用案



ブルーシート、通路、上履き用スリッパ（ベージュ色）、中履き用スリッパ（茶色）

15:00 TV体操と換気、マスクの交換について呼びかける

17:00 食事の配膳、感染症のある避難者の部屋・要支援者の確認

18:00 交代で食事

19:00 本部合同会議

【本部から報告】

- ① 罹災証明の手続きが開始される。
- ② 珠洲市内の避難所で待機中の2名(14日ショックを起こし、珠洲総合病院に搬送)

は本日、自衛隊車両で本避難所に戻った。

③看護チームより

- ・本日、自衛隊医療チームに13名が受診している。
- ・現在、消防団でコロナ2名、インフルエンザ1名の発症があり、消防団中に動揺がある様子。
- ・スリッパ履き替え時、転倒予防のため、椅子を置くようにする。

④消防団から感染予防のため、部屋への配膳は免除して欲しいとの申し出があり、従来と同様に入室せず、ドアの外に配膳、看護師が室内に運ぶ。心配ならマスクを二重に、手袋、更にガウン着用する。

20:00 コロナ2名の部屋が乾燥しているため、タオルをぬらし、部屋に干す。

風邪症状のあった避難者の体温はそれぞれ37.1度、38度

16日感染対策

早朝より、感謝症避難者用部屋にいる避難者が、濃厚接触者の隔離部屋で雑談しているのを発見

そのまま、濃厚接触者用部屋へ移動させ経過観察とした

8時過ぎ 朝のラウンドにて2名の発熱者あり いずれも感冒症状あり 前日の退所後にコロナ感染症陽性の報告等から感染疑い、COVID-19抗原簡易キット保有にて同検査施行
1名コロナ陽性、1名コロナ陰性

① 1名直ぐに、感謝症避難者用居室へ隔離開始

② 1名は家族以外の数名の住民との生活であり同室者への感染拡大の可能性懸念

- ・同室者は、本人の親世代の高齢が殆どでありトイレ使用も頻回。高齢者の排泄行動の動線断裂は混乱を予測させる。結果として、3階フロア全体を感染エリアと決定し、排泄動線を維持することとした

自衛隊巡回診療で、2名コロナ感染症・1名インフルエンザ陽性者確認

① 1名は、在宅のため自宅内で過ごすよう遊びに来ていた孫3人と共に帰宅

② 1名は、朝の感染者と共に入室

③ コロナ陰性者1名は、インフルエンザ陽性

感染者に対しては、経過観察及び医師の指示による薬剤の服用

日中、現在体育館に避難中の被災者よりコロナ感染症疑いの場合どうなるのか外出先で問い合わせあり、念のため、個室準備し母親と共に居室変更とした

14時ごろインフルエンザ陽性者の父親発熱あり

明日(17日)の自衛隊訪問診療時、インフルエンザ検査依頼予定

※濃厚接触者のトイレ使用について、感染管理認定看護師へ助言求め、部屋のすぐ前のトイレ使用とした

課題

避難所における課題として下記をアセスメントした。

- ① 感染予防対策を今後も引き続き行う。
- ② ブルーシートを敷き上履きとしたが、履き替え時、転倒予防ため対策する。
- ③ 高齢者は歩行時杖使用。トイレキットはトイレ内に欠かすことなく補充が必要である。
- ④ 高齢者の中で足元が不安定な住人がいる、家族の介助で歩行している。一人の場合もあり、引き続き見守りが必要である。
- ⑤ 避難所本部との連携・協働により、避難所の課題、個人別の課題に対応する。
- ⑥ 朝 8:30、夜 18:30 頃、2 回の合同会議からの情報交換が重要である。看護チームは引き続き朝の合同会議にも参加することにした。